

## 統合失調症患者の生活の質（QOL）に関する文献的考察

クニカタ ヒロヨ <sup>ミ</sup>ノ <sup>ヨシオ</sup>  
國方 弘子\* 三野 善央<sup>2\*</sup>

近年、患者立脚型アウトカムの指標のひとつとしてQOLが重視されている。本稿の目的は、QOLに関する研究を歴史的に概観することによりQOLの概念を明確にすること、ならびに統合失調症患者のQOLについての研究の到達点を明らかにし今後の課題を考えることとした。

保健医療におけるアウトカムを重視する流れの中で、QOLが注目されるようになり、1990年からQOLの研究が活発になった。QOLの定義は必ずしも一致しているわけではないが、QOLは患者自身による回答に基づくものであること、QOLは主観的である、QOLの指標は多因子的である、数値は時間と共に変化することの4つがQOLの重要な特性とされていた。

次に、統合失調症患者のQOL理論モデルとして、Bigelow, Lehman, Skantze and Malmのモデルを紹介し、あわせて7つのQOL測定尺度を紹介した。統合失調症患者のQOLの研究について、Medlineと医学中央雑誌を利用し、過去10年間に報告された文献から広く文献を検索するために「QOL, 精神科 (psychiatric)」をキーワードとして検索を行い、そのうち地域で住む統合失調症患者を対象にした論文のみに絞り込み検討した。その結果、患者のQOL得点は健常者やうつ病患者と比較して低いことが明らかにされた。QOLの関連要因には、個人の特徴、生活様式、陰性症状、精神症状、能力（家族関係適応、友人関係適応、他者との相互作用）、ソーシャルサポート、自己評価、自己決定などがあつた。QOLには心理的領域が大きく影響することから、今後、それらとQOLの関連を縦断研究により明らかにし、心理社会的介入方法の構築が課題であると考ええる。

**Key words** : 統合失調症患者, 生活の質 (QOL)

---

\* 岡山県立大学保健福祉学部看護学科

<sup>2\*</sup> 大阪府立大学社会福祉学部精神保健学

連絡先：〒719-1197 岡山県総社市窪木111

岡山県立大学保健福祉学部看護学科 國方弘子